

まえがき

本書は、2014年3月に岡山大学へ提出した学位論文「病院給食における地場産農産物導入の今日的意義と展開方策に関する研究」(学位授与番号：博甲第4992号)に、若干の加筆・修正を加えたものである。

大学、大学院修士課程で栄養学を専攻した筆者が、地産地消という課題を自らに課すこととなったきっかけは、博士論文を書くにあたりご指導いただいた小松泰信先生の研究室の門戸を叩いたことにある。しかし、当初は地産地消に関して栄養学的な側面、地域農業への貢献といった側面から、肯定的な視点は乏しかった。

その後、農業協同組合について学ぶ中で、ある厚生連病院では、地元JAと協同し、地場産農産物を給食に活用しており、その活動に少なからず興味を覚えた。病院給食においては、活動事例はあるにもかかわらず、そのフードシステムは不明であり、学校給食における地産地消と比較しても、調査が行われていない実態を目の当たりにしたことから、本研究はスタートした。

調査を進めるにつれ、地域農業への貢献はもとより、患者を思い、地域の食材を生かした給食を提供することで、美味しく、かつ喜ばれる食事を提供したいとする管理栄養士・栄養士の方々や、地域の食材を病院給食に使用することで地域農業を知ってもらいたいとするJA職員の方々などの姿に触れ、本活動が、給食の質的向上の視点からも、地域農業振興の視点からも意義深いことを実感した。

なお、これらの調査から得られた主な研究成果は下記の通りであり、本書の基礎となっている。

第2章 厚生連病院と地産地消

大宮めぐみ「厚生連病院における地場産農産物活用の現状と課題」『農林業問題研究』、第49巻、第1号、pp.154～159、2013

大宮めぐみ「厚生連病院にみる地場産農産物活用の動向と課題—全国的アンケート調査に基づいて—」『農林業問題研究』、第50巻、第2号、pp.131～136、2014

本論で述べているように、病院給食における地産地消は、一部の病院にとどまっている。しかしながら、農業があるからこそ、地域の食文化、食事があることを常に意識し、活動を継続していくことで、日本の農業を消費の面から支えていくことは意義深い。

「食と農」は、ともに語られるが、管理栄養士である筆者にとって、食がより豊かで、持続していくためには、農を守る視点が必要であることを教えてくださったのは、小松泰信先生（岡山大学大学院環境生命科学研究科教授）、横溝功先生（岡山大学大学院環境生命科学研究科教授）であった。

小松泰信先生には、厚生連研究という農業・食・医療が繋がるフィールドを管理栄養士である筆者に示し、数多くの研究機会を与えていただいた。また、事例分析を中心とした分析手法をご教授いただくとともに、統計的な分析手法を取り入れることでより深くリアリティーのある研究成果の追究方法についてご指導いただいた。なにより、地域農業に真摯に向き合い、食と農のつながりの必要性を筆者に説いてくださった。他分野から来た筆者を最後まで、厳しくかつ丁寧にご指導くださった上、学位論文の審査では主査を務めていただき、なおかつ、本書の出版に関しても仲介の労をとっていただいた。心から感謝を申し上げたい。

横溝功先生には、対象事例を客観的かつ普遍的な視点で捉え課題に接近する方法をご指導いただくとともに、新しい知見に熱意をもって取り組む姿勢を示していただいた。また、初めて研究室を訪れた日以来、常に温かい励ましと的確なご助言をいただいた。学位論文の審査では、副査を務めていただいた。ここに深く感謝申し上げます。

また、駄田井久先生（岡山大学大学院環境生命科学研究科准教授）からは、学会報告などを通して多くのご教示を賜り、学位論文の審査では、副査を務めていただいた。記して感謝を申し上げます。

そして、食料生産システム管理学研究室の同輩である坂知樹氏（現一般社団法人長野県農協地域開発機構研究員）をはじめ、後輩の皆様には、ゼミを通じて有益なご助言をいただいた。心からお礼申し上げます。

さらに、筆者が働きながら研究を続けることを強く後押ししてくださった多田幹郎先生（岡山大学名誉教授）、森恵子先生（中国学園大学現代生活学部教授）、学部、修士課程においてご指導をいただき、現在も研究者として筆者の手本とな

り続ける清原昭子先生（中国学園大学現代生活学部准教授）には、心から感謝申し上げます。また、前職場である中国短期大学、現在勤務する中国学園大学の皆様には、特段のご配慮とご支援をいただいた。心より感謝の意を表したい。なお、本書の出版を引き受けていただいた大学教育出版の佐藤守氏にもお礼を述べたい。

なにより本研究は多くの事例分析や、アンケート調査なしには完成しなかった。本調査に協力してくださった病院管理栄養士・栄養士の皆様、厚生連職員の皆様、JA 職員の皆様、仲卸業者・小売店の皆様のおかげである。ご協力を賜ったおひとりおひとりの名前をあげることはできないが、活動や意見に触れることができたおかげで、本研究が一つの成果となった。衷心から感謝申し上げます。

筆者は、まだまだ未熟であり、本書を書き下ろすことには、不安がある。しかしながら、本研究が、地産地消研究の一部となり、わずかでもその活動へ寄与することができればと切に願っている。また、これから研究者として、管理栄養士として、いかに「食と農」の持続・発展に貢献できるのか、常に自問自答しながら、研究を続けていきたいと改めて感じている。最後に、研究を続ける娘を温かく見守ってくれた両親と家族に心から感謝し、今後一層精進し続けることを誓いたい。

なお、本書には平成 24 年度 JA 研究奨励費助成対象研究による研究成果の一部が含まれている。

2014 年 12 月

大宮めぐみ

病院給食と地産地消

目次

まえがき	i
序章 課題と方法	1
第1節 本研究の課題と背景	1
第2節 本研究の構成 — 課題への接近方法 —	5
第1章 病院給食における食材調達と地産地消の動向	9
第1節 病院における給食経営管理の特徴	9
1 給食の概念と特定給食施設	9
2 栄養管理と経営管理から成り立つ給食管理	11
3 病院給食の目的と特徴	12
第2節 小売店中心型の食材調達	13
1 病院給食の食材購入先	13
2 病院給食における納品者としての小売店	14
3 病院給食の納品者としての仲卸業者と地産地消	16
第3節 学校給食における地産地消	18
1 歴史的変遷	18
2 給食の実施状況	20
3 食材調達経路	21
4 地場産農産物の使用状況	22
5 地場産農産物の購入経路	23
6 地場産農産物使用の課題	23
7 コーディネーターの必要性	24
8 社会的認知度と活動評価	25
第4節 病院給食における全国的な地産地消の動向	26
1 病院給食における農産物の購入実態	26
2 地場産農産物の使用状況とその購入先	27
3 地場産農産物の活用状況と患者の評価	28
4 地場産農産物活用に向けた課題とその解決方法	29

第2章 厚生連病院と地産地消	34
第1節 はじめに	34
第2節 アグロ・メディコ・ボリスと病院給食	35
1 アグロ・メディコ・ボリスの理論的枠組み	35
2 アグロ・メディコ・ボリスの機能	36
3 病院給食におけるアグロ・メディコ・ボリスからの示唆	37
第3節 厚生連病院の成り立ちと組織概要	38
1 厚生連病院の歴史的変遷	38
2 厚生連病院の特性	40
3 厚生連病院と農業・農村との関係性	40
第4節 佐久病院と JA 佐久浅間の事例	41
1 JA 長野厚生連の概要	41
2 佐久病院の概要とセントラルキッチン化	42
3 多様な地場産農産物の活用と今後の方針	43
4 JA 佐久浅間野菜加工開発センターの概要	44
5 加工センターと佐久病院との取引関係	46
6 JA としての役割と課題	47
7 地域拠点病院としての合理化と厚生連病院としてのあり方	48
第5節 新町病院と A・コープしんまちの事例	49
1 新町病院の概要	49
2 栄養科の概要と食材購入	49
3 系統利用から地産地消への転換とその背景	50
4 食材納品者としての A・コープしんまち店	51
5 厚生連病院と A・コープから見る地域内循環	52
第6節 全国の厚生連病院における地場産農産物使用の実態	53
1 厚生連病院における給食運営の特徴	53
2 厚生連病院での地場産農産物の使用状況と購入先	55
3 JA グループを意識した地場産農産物使用と活動展開	58
4 開設主体で異なる地場産農産物活用の課題と解決方法	60
5 厚生連病院における地場産農産物活用の特徴	63
6 先進事例としての厚生連病院とその展開方策	64
第7節 むすび	66

第3章 農業協同組合における病院給食への対応と課題 …………… 69

- 第1節 はじめに 69
- 第2節 農業協同組合の地域対応と地産地消 70
- 第3節 農業協同組合の地域内流通への対応と地産地消の方針 73
 - 1 農協共販の展開と特徴 73
 - 2 JAにおける地産地消の方針と病院給食 76
- 第4節 遠州病院とJAとびあ浜松・JA遠州中央の事例 79
 - 1 遠州病院と県内JAによる地産地消の概要 79
 - 2 JAとびあ浜松における病院への食材納品と地産地消の意義 81
 - 3 JA遠州中央における病院への食材納品と地産地消の意義 83
- 第5節 JAの集荷・分荷・配達機能における課題と対応 85
- 第6節 むすび 87

第4章 病院給食における業務委託化と地場産農産物導入方策 …… 91

- 第1節 はじめに 91
- 第2節 業務委託化の動向と課題 92
 - 1 業務委託の歴史の変遷 92
 - 2 業務委託化における目的と課題 93
 - 3 給食分野における市場規模と今後の動向 94
 - 4 全国的な業務委託率とその傾向 96
- 第3節 アンケート調査からみる業務委託化の現状と地場産農産物活用への影響 98
 - 1 業務委託の実態と食材購入 98
 - 2 給食運営別にみる地場産農産物の活用状況 101
 - 3 給食運営別に異なる地場産農産物活用の課題と解決方法 104
 - 4 給食部門からみた委託化の影響 107
- 第4節 高知病院の事例 108
 - 1 高知病院の概要と地産地消活動 108
 - 2 JA直販店との取引と業務委託化の影響 110
 - 3 活動方針の明確化と委託契約の重要性 111
- 第5節 給食委託会社における受託の実態 112
 - 1 給食委託会社の食材調達経路 112
 - 2 業務委託化での地場産農産物における対応と可能性 114

3	給食委託会社における食材流通と地場産農産物	114
第6節	むすび	115
第5章	病院給食における地場産農産物導入の意義と展開方策 …	118
第1節	はじめに	118
第2節	石川病院の事例	119
1	石川病院の概要と地場産農産物使用の経緯	119
2	購入業者選定における制約条件	119
3	地場産農産物活用を通じた給食提供部門における専門性の発揮	120
4	給食提供部門及び関連部署への波及効果	120
5	病院内における給食提供部門のあり方とコスト意識	122
6	病院給食における地場産農産物活用の効果と課題	122
第3節	病院給食における地場産農産物導入の意義	124
1	地域社会を支える病院	124
2	地域社会へ開かれた病院給食	124
第4節	病院給食における地場産農産物導入の方向性	125
1	病院給食における地場産農産物導入の全体像と展開方向	125
2	病院間における活動の展開方向	129
第5節	むすび	131
終章	結論	136
第1節	各章の要約	136
第2節	病院給食における地場産農産物導入の展望 — 残された課題 —	145

図表目次

図 1-1	入院時食事療養の基本構造	13
図 1-2	地場産農産物を活用するための課題	30
図 1-3	地場産農産物を活用するための課題の解決方法	30
表 2-1	JA 佐久浅間の佐久病院向けカット野菜規格表	45
図 2-1	JA 佐久浅間の佐久病院への納品経路	46
表 2-2	JA 佐久浅間の佐久病院への納品時間	47
表 2-3	病院別の立地条件	53
表 2-4	病院別の業務委託率	54
表 2-5	病院別地場産農産物の使用頻度	55
表 2-6	病院別地場産農産物の購入先	56
表 2-7	病院別地場産農産物使用の経緯	58
表 2-8	病院別地場産農産物使用の目的	59
表 2-9	病院別とくに意識して取り組んでいる活動	60
図 2-2	病院別地場産農産物の使用課題	61
図 2-3	病院別地場産農産物の使用課題の解決方法	62
図 3-1	協同組合固有の価値	72
図 3-2	卸売市場外流通システム	87
図 4-1	給食市場のポジショニング	95
図 4-2	給食の総市場規模推移	96
図 4-3	患者等給食の委託率の推移	97
図 4-4	開設主体別にみる業務委託率	97
図 4-5	病床数別にみる業務委託率	98
表 4-1	委託内容	99
図 4-6	給食運営別にみる業務委託のメリット	99
表 4-2	給食運営別にみる生鮮野菜の最購入先	100
表 4-3	給食運営別にみる生鮮野菜の購入先軒数	100
表 4-4	給食運営別にみる地場産野菜の使用率	101
図 4-7	給食運営別にみる地場産野菜の購入先	102
図 4-8	給食運営別にみる地場産農産物使用経緯	102
表 4-5	給食運営別にみる地場産農産物使用目的	103
表 4-6	給食運営別にみるとくに意識して取り組んでいる活動	104
図 4-9	給食運営別にみる地場産農産物使用課題	105
図 4-10	給食運営別にみる地場産農産物使用課題の解決方法	106
表 4-7	高知病院の食材購入先一覧	109

表 4-8	高知病院の地産地消活動一覧	109
図 4-11	かざぐるま市の納品経路	111
図 4-12	A社の食材購入経路	113
写真 5-1	市民公開講座の様子①	121
写真 5-2	市民公開講座の様子②	121
写真 5-3	市民公開講座にて提供した料理①	121
写真 5-4	市民公開講座にて提供した料理②	121
図 5-1	病院給食における地場産農産物活用の展開方策	126
図 5-2	病院給食における地産地消の活動の全体像	128
図 5-3	病院間での活動展開方向	130